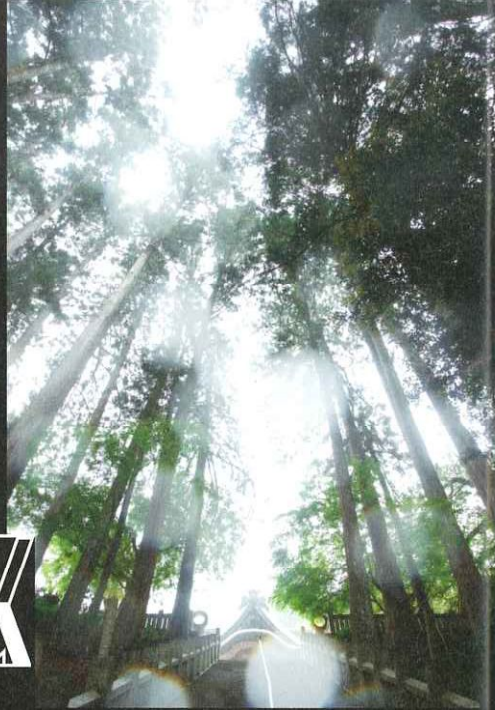


澄ま<sup>せて</sup>ごらん。  
耳が喜ぶ音に



の  
市  
の  
Sato



「祖谷のかずら橋」に手をかける。平家の落人が通ったのかもしれない、という歴史ロマンよりも、下を見て足をすくめ、シラクチカズラという蔦を編んでつくられたという橋の手すりにしがみつき、一歩ずつ対岸へ向かうのが精一杯。やがて、川のせせらぎと鳥の歌が風と共に耳に届く。

三好市は、五感を使って楽しむところなのかもしれない。

すでに感じているはずだ。あなたがいま手に感じているのは、三好市の人々によって生み出される割り箸の原料のヒノキ。ザラザラしている？ 重さは？ 香りますか？

触れて、視て、香って、聴いて、味わう——。  
そんな三好の贅沢な当たり前「MEUTRAL」  
の旅へ、いざ！

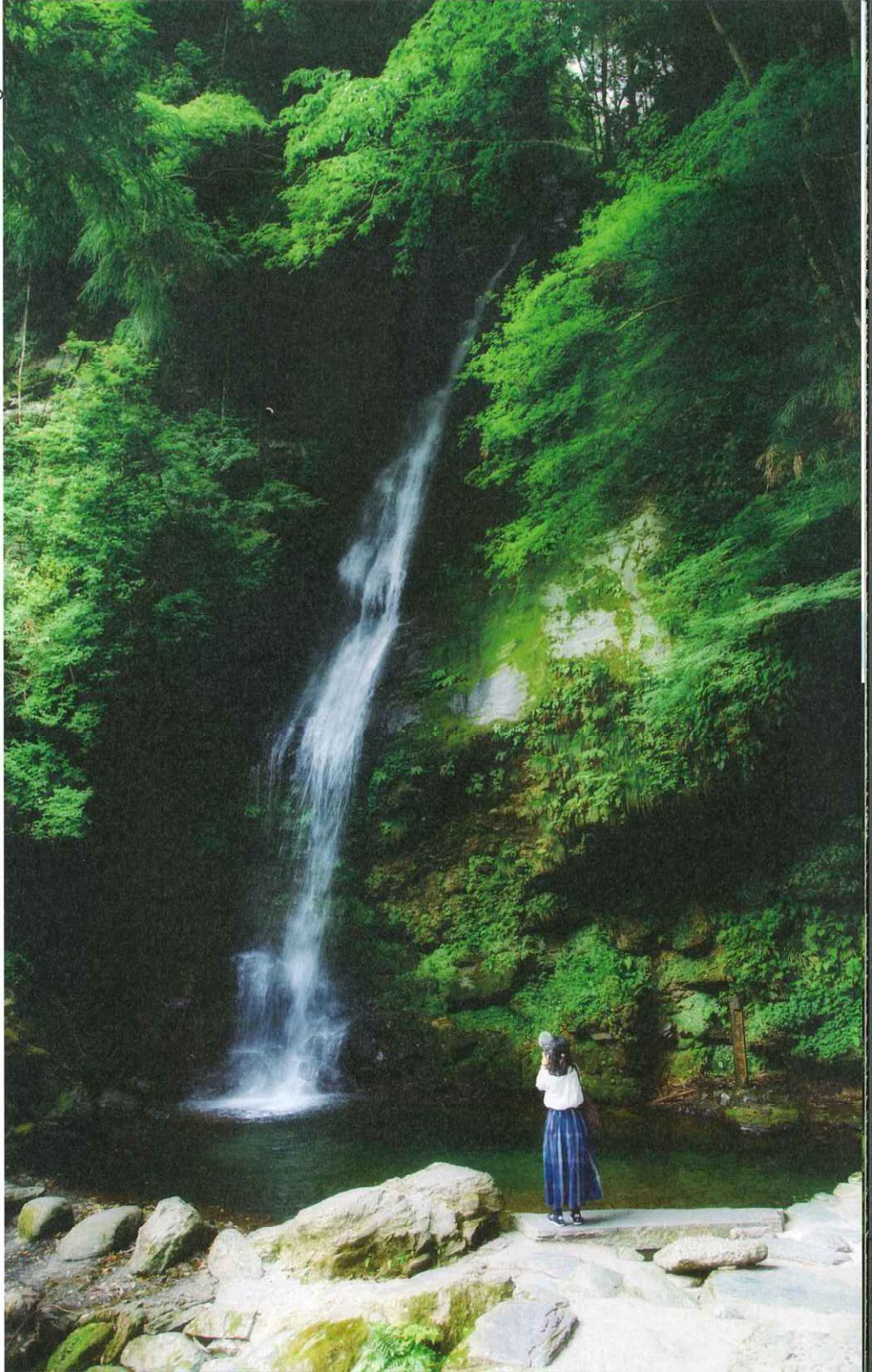
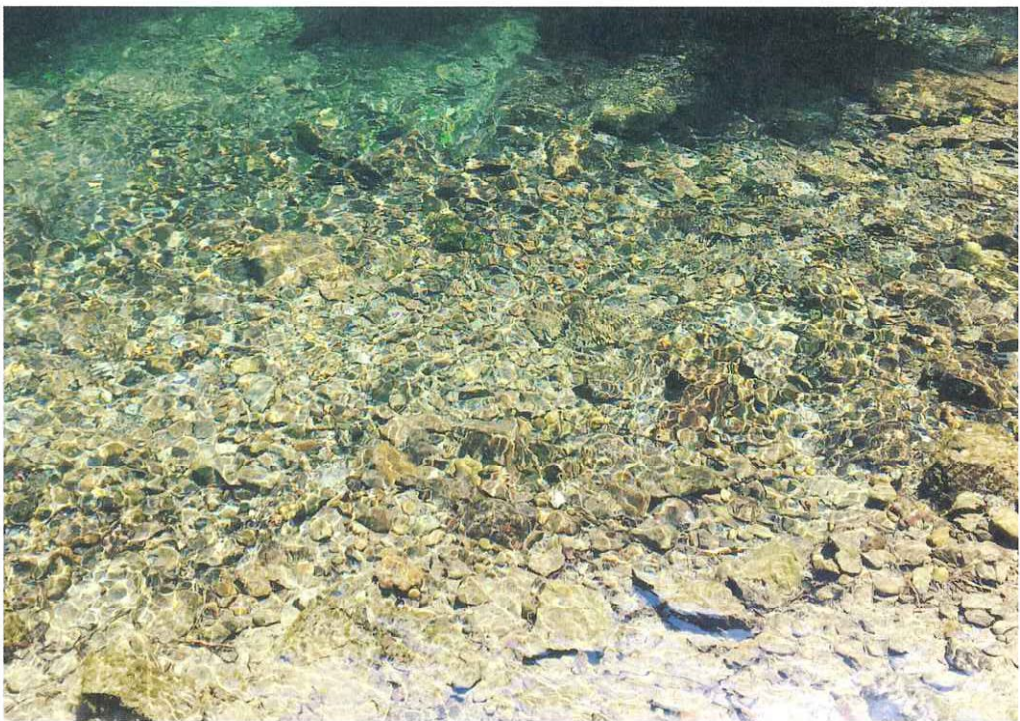
※中立の、中性の意味を表すNEUTRALと三好のMをかけた造語。心の平穏や、人間関係のフラットさ、という意味としてもとらえてほしい。



木  
木  
木  
木

木  
木  
木  
木

木  
木  
木  
木





# 今昔物語

土地、歴史、新たに起こっていること……。その魅力たっぷりな三好市をちらりとご紹介します！

四国を代表する河川・吉野川がもたらす肥沃な土壌  
四国の真ん中で吉野川がちょうど南から東へ大きくカーブするポイントに位置し、四国最大の面積を誇る徳島県三好市。この吉野川が豊かな土壌をもたらす、四季を通じて多くの農作物が収穫できる。近年はラフティングのメッカとしても知られる。



近年はラフティングやウェイクボードの世界大会も開催される吉野川

落人伝説や妖怪伝説などの、歴史深い郷



昔ながらの生活を続ける集落が多々残っているのも魅力のひとつ

秘境と呼ばれるこの山間地域

には、12世紀後半の屋島の戦いに敗れた平家の落人伝説が残る。「祖谷のかずら橋」はそんな平家の落人が追っ手から逃れるために造られたという説もあり、すぐに切り落とせるようにシラクチカズラという蔦でつくった？なんていう、歴史的なストーリーにも事欠かない。

また、約110もの妖怪伝説が残る、妖怪の郷として知ら

れ、あの児啼爺コナキジイの故郷とも言われている。全国から妖怪ファンの来訪が後を絶たない。

全国に先駆けた取組も！

大歩危・小歩危などの美しい溪谷をはじめとした、手つかずの自然や農村風景に惹かれ、外国人観光客も多く訪れる。四国八十八か所を巡礼する「お遍路」も人気のひとつ。

近年では、全国的に先駆けた廃校活用やまちづくりの取組が行われ、移住者を増やし続けている場所でもある。



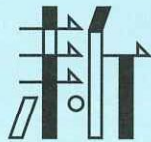
休校・廃校活用で生まれ変わった校舎は、人々の新たな集いの場となっている



まっすぐでやさしい  
温故知新がここに



と



Arata

ここへ来た理由って  
川の音かもしれない



### 三好市の廃校活用に 魅せられて

ここは野呂内というエリアです。上野呂内と下野呂内があった。この校舎、サイズ感がちょうどいいでしょう。東京から移住して4年になります。前職のつながりで三好市の廃校活用のプロジェクトに出会いました。この校舎を使って事業をやりたいか

たんですが、近くを流れる小川が豪雨で大氾濫してこの中も膝下くらいまで土砂で埋まって立入禁止になり、貸してもらえない状態ではなかったんです。代わりに出合というエリアの廃校にカフェ「ハレとケ珈琲」をつくったのが2014年。

2016年に「今からでもやらない？」と声をかけていただいた下野呂内を再訪。やっぱり心惹かれました。必死で土砂をかき出して、改装して。2018年のGWにオープンしました。

移住を決めたのは、息子のことも大きかったかな。2歳だった息子を連れて、出合に視察に来たときに、気管支が強くない息子がスースー寝入っているのを見て、空気が大事なんだって。7歳になった息子は、その小川で元気に遊んでいます。

あ！ニシさん、今日先に帰って息子を迎えてくれる？……すみません。うち、「夜ご飯会」をやっています。いつもスタッフと一緒にごはん食べるんですよ。今ニシさんをお願いしたのは、息子が5時に帰ってくるから、悪いけど家で出迎えをしてって。家族みたいになってますね。「夜ご飯会」も、ゆくゆくは地域や一般の方に開いてやりたいなと思ってます。

地元の方ですか？ オープンしたときは、「うちの通ってた小学校がどうなったかあ？」って見に来てくれましたよ。みなさん、できる前から楽しみにしてくれています。そうそう、この最後の卒業生の方が養豚場をやっていて、

### シモノロバーマネント 植本修子さん

Uemoto Shuko

「ハレとケデザイン舎」代表。2014年に三好市の廃校活用のプロジェクトをきっかけに移住。「シモノロバーマネント」では、四国の雑貨店「シモノロ・シモノ」・「シモノ口食堂」・「ハレとケ洋菓子教室」などを中心に活動する。

**味** ひらら焼きという、熱した石でアメゴや鮎・野菜を焼く原始的な郷土料理。調味料さえあれば、魚は河原で調達して作れちゃう。



シモノロバーマネント  
住所：徳島県三好市池田町西山中塚  
営業時間：11:00～17:00  
(木・金曜定休)  
<http://haretoke-d.jp>

豚を仕入れられないかという話をしています。そうになったら、人も豚もみんなここから生まれたすごい地産地消になりますよね！そういうことが全部面白いです。

### 「スूपカレーくださいな」

ここは年配の方が多いんですけど、隣にある公民館に集まって、デイケアの一環でみんなです。そのときにランチを頼んでください。ある日、メニューがスूपカレーだったんですよ。「食べたことがない！」って。したら、ひとりのおじいちゃんが気に入ってくれたみたいで。「スूपカレーくださいな」って、同窓会の集まりに人数予約してくれたことがあります。嬉しいですよ。

祖谷には今、ヨーロッパからの旅行者がどんどん来るんですよ。こんな秘境と呼ばれるところに。地元の人も気づいたんじゃないかな。最近、祖谷のおばあちゃん



特に気に入っていて、あえて残されたという教室の張り紙



校舎のなごりが残る窓辺からは、豊かな緑や川の流れを見ることができる



四国・徳島だけでなく、日本全国のものづくりの魅力が詰まったこだわりの商品が並ぶ

たちが英語を勉強したんです。お遍路文化が大きいですよ。ね。「おせったい」で相手をもてなすことで徳を積むという考え方があるから。もてなしたいのに、トイレの場所も教えてあげられないもどかしさがあったんです。だから最低限の案内ができるようにって。

### チャレンジを続ける土地

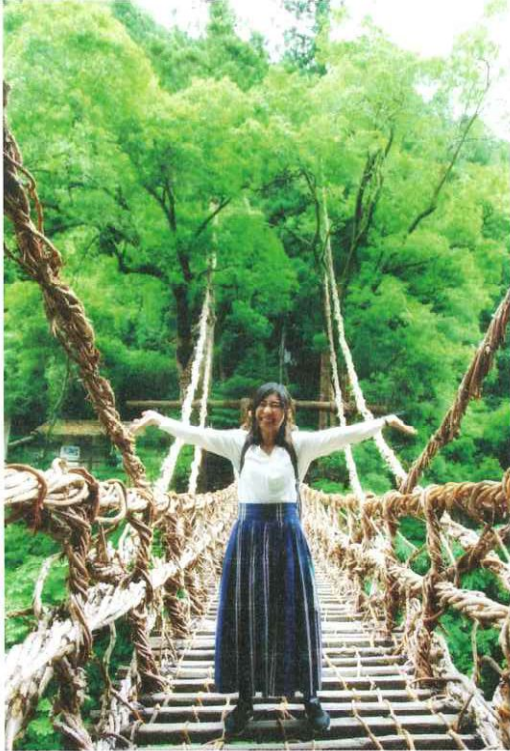
今、いろんなものが同時に立ち上がっているんです。6月には池田で「MINDE」っていう交流拠点の場所がスタートしたり、池田博愛会さんも地域の交流施設をつくるそうです。こういう動きが地域全体の追い風になればいいですね。

三好市ってチャレンジしてるなって思います。サテライトオフィスもいち早く取り入れたし、廃校の活用もいまや全国規模の事例だし。何か新しいことをやってみたい人が、実現しやすい場所じゃないかと思えますね。

# 住んでみた

## ● 記！

三好大好きっ子のウブドベ・中村が、プロジェクトのためにプチ移住を敢行！ 池田博愛会での仕事を、五感を使って感じ取ってきました。



Profile

中村百花さん Nakamura Momoka

NPO法人Ubdobeに所属するMEUTRALのプロジェクトリーダー。福祉の仕事の経験はないが、持ち前のガッツで福祉の世界に笑顔を増やしている。



おじいちゃんおばあちゃんも

理事長です！

いれば、若い子たちのダンスパフォーマンスもあり、親子連れも多々。まさに老若男女が集まるフェス！ だけど、しっかり福祉。

っていうのも、食べ物や商品が池田博愛会や地域で作られているものだし、利用者さんらしきお客さんも結構いる。というか、言われなきゃ全然わからないけど、ステージで阿波踊りしてる利用者さんもいる。しかも上手い！



ファイナレは「福投げ」という、クジ引きの番号が書かれたボールをキヤッチして景品をもらうメイスイイベント。これがまさに「人類皆同じ感」！（笑）障がいの有無？ 全然わかんない！ ここには「ユニバーサル」っていうジャンルがない。たぶんこの、



「特別が当たり前」っていう一つの現れなんだろうと思う。

あ、あと、池田博愛会の理事長が武将のコスプレして、「足軽や〜」ってイジられてたり、お祭りで使える通貨（？）に理事長が描かれてたり、この風土でトップが愛されてる感じにキュンとした。

「箬蔵福祉村」という行政ではない民間の自治組織の存在感が大きいのも納得。今日一日で池田博愛会のすごさを目の当たりにしてちょっと感動したし、スッキリした。



### ～徳島県三好市の地域福祉PRプロジェクト～ MEUTRAL

三好市の「社会福祉法人池田博愛会」と、医療福祉エンターテイメント集団「NPO法人Ubdobe」のコラボレーションプロジェクト。社会福祉法人なのに(?)1000人規模のフェスティバルを開いたり、作物の栽培・加工・街中での販売まですべて法人内(!)まわしたり、地元の自然資源を生かした街への貢献を続けていたり……。日本中で注目される「地域福祉」が自然と根づく池田博愛会の精神にハートを撃ち抜かれ、三好市の土地や文化の素晴らしさとともに、その「特別が当たり前」の地域福祉の魅力を発信しています。

2018年度は、三好市の地域福祉を都会にしながら五感で感じることが出来る体験型イベント「MIYOSHI BRIDGE」、実際に行って・会って・触れてみることで、よりディープな三好の魅力を体感いただける「Social Good Camp ～秘境の地域福祉探求ツアー～」などのイベントを実施！ <https://meutral.com>

5月27日

福祉のフェス!? 「博愛まつり」へ!

大きな仕事を終わらせて、ソッコーで飛行機に乗り三好市へ。というのも「1000人は来るで！」という池田博愛会のお祭りがあるから。え、あの秘境と呼ばれる山の中に？ 頭の中には「福祉の人たち。でホンワカやってる行事しか思い浮かばないけど……1000人って、盛ってない? ……」と思いきや、盛ってなかった！（笑）たどり着いた「博愛まつり」の会場には、ゲートボールをするハツラツ



1000人は来るで!

「イケメンで、優しくて、私のこと愛してくれる人!!!」(作業しながら恋バナ中、好きなタイプについて。いや〜的確、特に3つ目) 「東京の人は60すぎると趣味を探しよるけど、田舎は生きとるだけで趣味や!」(職員さん。素晴らしいことだ……)

### 5月28日 障害者支援施設 「箬蔵山荘」の通所部へ



「箬蔵山荘」ってキャンプみたいなの名前だけど、日中通って来てみるまでお仕事するチームです。

「お手伝いさせてほしい」とは言ったものの、どこの誰かもわからない人がコロコロと入ってきて、2日間何が出来るんだろう……? と期待と不安半分ずつで突入すると、みんなめっちゃ話しかけてくれる！（嬉）

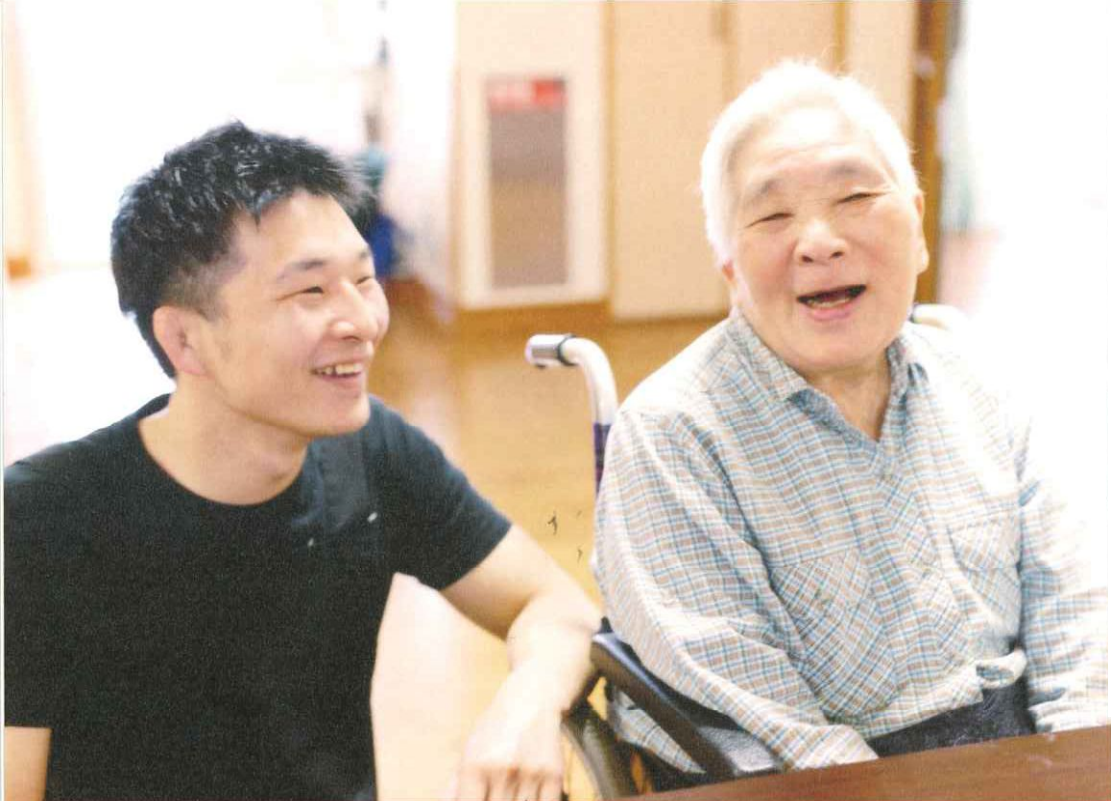
「どこから来たんですか?」「新しい職員さんですか?」……みたいな質問もあるけど、「東京から来たん!? 去年デザインニードラ行つたで〜! ミッキミッキマーウスとかやろ!」「え! 嵐会つたことあるん? (東京イコ

ル有名人、となる気持ちは分かる)」「誕生日いつですか? (いきなり! って思ったけど、次の日も間違いなく覚えてくれていた)」「コーヒー買って来たで〜」と、みんなの様々な興味とウエルカムに囲まれる。よかった! みんな大らかで優しく素直! そしてみんなのお世話係のような利用者さんに「ここ座ってええで〜」と輪に入れてもらう。早速、芋の苗植え「いもさし」、造花づくりなどの作業に入れてもらう。お手伝いというよりも、生活をともにさせてもらった。

一緒にご飯を食べたり、作業をしながら思ったけれど、みんな発語があるかないか、サクサク動けるかどうかに関わらず、



「一人でしとりしよんねん〜、りんご、ラーメン、アイス、って好きなもん並べるねん。え、ラーメンって、ム〜つく??」(なんてハッピーなしとりなんだ……)



心のまま素直な気がする。  
 何人かとはじっくり話したけれど、自分の生い立ちや今の感情をまっすぐに表現してくれるのがなんだか嬉しい。話せない人も、なんとなくそばに来てくれたり、そうでなくてもご機嫌かそうでないかがわかったり、利用者さん同士で世話をし合おうとしたり。

そして全員面白い……。私の笑いのツボが浅いのか？ 正直に笑わせられ続けていた気がする。普段は「今笑うべきとこだな、笑っとこう！」的な社会のなか

で妙な感情の使い方をしていたのかもしれない。  
 「元気がなくなったら、今日のこと思い出してよ」  
 と、ある利用者の女の子に河原でぼんやり休憩してる時に言われた。この時、「こうして素直に楽しい気持ちとか、目の前の山の色とか空の色とか、ほんとは思い出そう」と思った。そして、この楽しい！ っていう感情は周りにも伝わっていたんだ、と思う。

2日目の最後、こっそり手作りのプレゼントをもらったり、「え〜写真キライ……」って言ってた人がノリノリで「一緒に写真とろう！」って言うってくれたり、たった2日間の間に、「箸蔵山荘」は大好きな場所になっていた。  
 みんながみんなのことを警戒しない、誰かが誰かをサポートし合って、ふざけたり、励ましたり、笑い合ったりする大らかな気質は、この地域をそのまま写しているような気がする。

5月30日  
 おせつたい文化を  
 探りに箸蔵寺へ

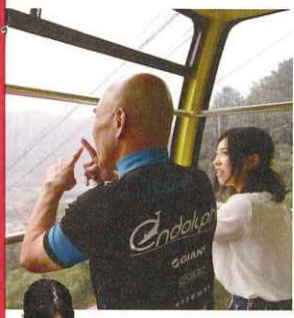


を  
 するおせつ  
 文化が気質とし  
 てあるらしい。



三好ですつと謎だったのが、「この優しさとかウエルカム気質って日本の田舎どこでもあるものなの？」ということ。「おせつたい」という聞き慣れないワードを耳にすることが多くて、そのルーツを探るために三好市の別格二十霊場第十五番「箸蔵寺」へ。

たまたま出会った何十年もまわっている素敵な。お遍路マスター。ご夫婦と、ロードバイクで爽やかに通勤(?)されているお坊さんに話を聞いてみた。すると、外からやってきたお遍路さんに食べものをはじめお出迎えをするおせつたい文化が気質としてあるらしい。



特に三好市の中心部・池田町はたばこ産業でかつて宿場街としても栄えていて、ウエルカムな文化がなじんでいるのかも、とのこと。なんだか妙に納得。

ちなみにこの箸蔵寺、お遍路マスターいわく、ロープウェイを登ってたどり着く、別世界感があるのに、商業っぽさがない穴場だそう。雨の中しつとりと気ももらった。五感が生き返った。



「中村さんいるから、安心してんだよ」(ある利用者が普段残す昼食を「今日は食べるから、全部食べたはめて!」と有言実行したのを見て、他の利用者さんが言ってくれたこと)

博覧会  
 名言集!

土地が人を育み  
 広くてまるい心ができる

を  
 油  
 Tamugu



水がほんまにここは  
綺麗だなって思いました

**法人と地域がつながるところ**

**滝上** 一番好きな味といえば鮎です。じいちゃんと父さんがずっと川で鮎釣りしてて、ちいちゃい頃から行ってたんで。釣れたての鮎はすごく美味しかったですね。

**岡** 好きな味は……生ビール？運動した後とか最高です。あと、徳島のすだちも好きですよ。もうね、何にでもかけてしまうんですよ。豆腐や魚はもちろん、お茶漬けにかけたり。けっこう美味しいんですよ。

運動はたくさんします。「スピリットの会」のみんなとゴルフしたり。あと、マラソンもしようります。

**滝上** 「スピリットの会」っていうのは、池田博愛会の有志のチームで、スポーツを通じて法人内の横の広がりをつくって盛り上げていこうという会です。

僕は野球部に入ります。冬は、祖谷でやる雪合戦の大会に

出たりとか。

池田博愛会っていういろんな事業所があつて、行事やお祭りです事業所に職員とも関わりがあるし、行事に参加してくれる地域の方とも関わりをもつことができる。そういう意味で、法人が地域と一体になっているから、地域の人たちとも顔見知りになつて、お祭りや行事と一緒に働ける。人脈が広がっていくのが魅力ですね。

**岡** 地域の方もそうだし、ほかの施設の人との関わりが増えましたね。趣味とか仕事の悩みも聞いてもらってます。

**待っていてくれる  
笑顔がある**

**滝上** 職員はみんな優しいです。僕は「長生園」という高齢施設に1年ちよとおったんですけど、希望を出してこの4月からこちらの放課後デイサービスで働かせてもらっています。児童支援の仕事については何も知ら

児童発達支援センターすぎのこ  
支援員

滝上和希さん  
Takino Kazuki

保育士

岡加奈子さん  
Oka Kanako

特別養護老人ホームでの支援を経て、放課後デイサービスを担当する滝上さん。スポーツマン。岡さんは子どもたちの生活周りの支援を行っている。阿波踊りの連にも所属するアクティブガール。

**景色** 通勤途中に見る吉野川(滝上)  
普通に歩いていて危なくない道(岡)



児童発達支援センターすぎのこ  
発達に何らかの障がいや心配をもつ子どもたち(未就学児が対象)に、発達の促進と障がい軽減のための早期療育を行う。同じ場所で放課後デイサービスも(小学生が対象)。



インタビューを終え、子どもたちに向き合う2人はすっかり優しい先生の顔に



広々としたセンター内からは終始子どもたちの明るい声が絶えない

ない状態だったけど、子どもとの関わり方や支援の仕方について一から教えてもらいました。施設長も勉強できる環境をつくってくれて。ありがたいことです。

**岡** 私も毎月1回、病院の先生が来てくださって言語研修しています。子どもと一対一でする勉強支援の様子をビデオに撮って、対応なんかを研究するんですけど、すごくためになる。先生も親身に教えてくれるし。ここには分かんことを聞きやすい環境もあるかもしれませんね。

**滝上** 相手が高齢の方でも子どもでも、体力勝負なのは同じこと。「すぎのこ」の子どもたちは反応がすごい純粋やし、教わったことがどんどん身に付いていく。子どもたちの成長を間近で見れるのは、やってて嬉しいですね。

**岡** ひとつ忘れられんエピソードがあるんです。排泄支援の話なんですけど、ひとりの子が全然おしっこが出なくて。1年かけ

て支援しよったんです。次こうしたらどうなるかなっていうのろ試して、そしたらある日おしっこが出たんですよ。職員みんな「よかったなあ」ってすごい喜んでくれて。私一人でやったんじゃないんで、職員みんなで試行錯誤をくり返して、結果その子が一歩前進できたっていうのは、ほんとに嬉しいことやと思います。

**滝上** 「子ども」と一口に言ったら、十人十色。それぞれの性格はもちろん、障害特性も違う。この子にはこの言い方がいいんだけど、この子には伝わらない、ということがある。日々、子どもたちへの伝え方や関わり方を考えていますね。

**岡** 池田博愛会は、人がみんないいんです。ここにいる人たちが笑顔で待っていてくれるから、たいいてのことは大丈夫だなんて思えます。先輩にも後輩にもなんでも言えるし、アドバイスマたくさんくれる。働きやすいところだと思います。



箸蔵地区はみかんの木が多いから、みかんの香りかなあ



自分のじいちゃんばあちゃんみたいに接してる

岡田 最初、利用者と職員との区別がつかなかったです。利用者の人が表のそうじしたりしてるんで。「この人職員？」って思ったこと、何度もあります。

藤村 なんか、なじんどるんですよね。僕も、入浴や食事っていう普段の生活しとる利用者と接するときは、あんまり業務っていうのを意識してないかもじゃない。自分のじいちゃんばあちゃんみたいな感覚で接してる。家族みたいな。(館内放送で製麺担当が呼び出される)あれ? ごめんさい、製麺担当僕なんので、ちよつと行ってきます。

岡田 ……呼び出しくらった藤村くんがおるのは「生産活動班」っていうて、自分たちである程度できる人たちが生活するところ。僕がおるのは「機能訓練班」で、自分らではなかなかできないような人たちが集まっ

ているところ。正直、食事介助と排泄介助がメインです。やけど最近部署を通して、「できんのが当たり前じゃなくて、ちよつとでもできることを増やそう」という取組をしようなんです。

例えば、外に出て草取りをしてみたら実際できる人が多くて。自分も一緒に草取りをしよつたら、利用者との会話もはずむんですよね。結局できんていうのはこつちの思い込みで、やってみたら利用者ができるんですよね。お、戻ってきたで、製麺担当・藤村くん!

藤村 失礼しました……。製麺部門では、三好市のアンテナショップに卸すうどんやそば、ラーメンを作ってます。ここで使う素材の一部は農圃作業で収穫したのを使っています。製麺は一人の作業になるので、好きな音楽ガンガンかけながら黙々とやっています。

美味しいですよ。池田のバスターミナルにある「麺処はくあ

障害者支援施設 箸蔵山荘

支援員

岡田 陸さん

Okada Riku

支援員

藤村 憲吾さん

Fujimura Kengo

教育関係の仕事からの転職で3年目になる岡田さん。入所部で食事・入浴・機能訓練を主に担当。

新卒入職で4年目となる藤村さんは、入所部の生活支援と合わせて公園清掃作業・製麺作業などを担う。

「昔」 箸蔵に多く生えているみかんの香り(岡田) 普段意識しないので、まったく匂いません……(藤村)



障害者支援施設 箸蔵山荘  
通所部と入所部で生活支援を行う施設。通所部に35名、入所部に73名の人たちが利用している。最低でも月に一度はイベントが開催されるほか、絵画クラブ、料理クラブなどの活動も。

い」で食べられます。

岡田 俺は、池田駅前にある「21世紀」のチキン南蛮やな。

藤村 超ローカルな名店ですね。昭和レトロな喫茶店。僕はお好み焼きの「花らん」もオススメです。

人間を相手にするから毎日違う

藤村 僕も、介護や福祉の世界を何も知らない状態で入ったんで、想像とはだいぶ違ってたね。入ってみたら親しみやすいというか。利用者さんと一緒に座ってテレビ見ながら話したりして、逆に癒されることが多々あります。

岡田 「箸蔵山荘」はやりがいのある、楽しい場所だと思ってる。日々の業務にしても、お風呂・トイレ・食事というのは、だいたい時間が決まってる。でも、人間を相手にしよるんです。向こうの感情も毎日違うし、こっちの感情だって違う。そんな



「利用者さん」というより、当たり前前に接する家族という感じ、と藤村さん。お互いの信頼が伝わってきた



取材班が訪れると一気にウエルカムモード一色になる「箸蔵山荘」。日頃の温かな雰囲気がかかえる

かで「今日は機械がいいけん、いつもよりやってみよう」とか、そんな読み合いをしながら一日がスタートする。それで午前中と午後ではまた違うしな。嫌なことだつてめつちやあるけど、面白いことの方が多いです。

藤村 障害があると一括りに言っても一人一人の特性があるんです。最初、自閉症の方にどう接していいのかわからなくて苦労したこともありました。けど、先輩の発言とか行動をマネしたりして。接し方に正解っていうのはないと思うんです。何年も働いている先輩のいいところを見ながら、徐々に覚えていってます。

岡田 結局目指しよるのは、利用者だから職員だからかわからない状態なんじゃないですか? 障害があつても就職したり、社会生活ができるように取り組むのが俺らの仕事なんです。

知らんつてだけで勝手に思い込みをしとった福祉の仕事は、今はすこい面白いです。



音がないのが好きだになって。  
こっちは静かでもいいなと

**出たからこそわかる魅力**

**佐藤** 自分はお年寄りの方の食事や身の回りの支援をしています。入所施設を担当しているので、夜勤もあるし、早出も遅出も日勤もあります。

好きな味ですか？ 井店「どのピリ辛チキン丼ですね。僕ずっとレスリングをやっていたんですけど、練習の帰りによく食べてました。最近も先輩と「どん行くかえー」って。昔からの癖で大盛りを頼むんですけど、べろっといけますね。

**川原** 私は看護師なので、利用者さんの健康管理や体調の確認などをしています。

え、息抜きですか？ 私は仕事仲間と飲みに行くことかな。このご飯おいしいねとか、利用者さんへの対応のこととか話したり。……日本酒が好きです。

**佐藤** 僕らふたりは三好市の出身です。僕は神奈川県の大学で経営の勉強をしていました。

特別養護老人ホーム 永楽荘

看護師

川原 蒼さん

Kawahara Aoi

介護員

佐藤 仁貴さん

Sato Mutsuki

利用者の健康管理に勤める川原さんは、三加茂地域で有名な三加茂大鼓の経験も。

入所部のユニットを担当する佐藤さんはレスリング歴12年。阿波踊りも4年の腕前。

**音** 阿波踊りの鳴り物(佐藤) 音があんまりなくて、静かなところ (川原)



特別養護老人ホーム 永楽荘

ショートステイと入所部からなる施設。ショートステイは21名、入所部には81名の方が利用している。ユニット型の個室ごとに担当職員がいるので、利用者との馴染みの関係を保ちながら生活機能の維持・向上を目指し、支援を行っている。



永楽荘の屋上から見える、川原さんのお気に入りの眺め



自分が家族だったらどうするかと考えて日々利用者さんと接しています、と川原さん



まるで親子のような2人。「利用者さんの笑顔が嬉しい」と言う佐藤さんにもう一つ

ぱり利用者の笑顔ですかね。この間、歩けなかった方がちよとずつ歩けるようになったんです。

そのときに言われた「ありがとうございます」は今ままで一番嬉しかったんじゃないかな。

利用者の水分摂取からトイレ誘導、全部の過程を理学療法士や看護師さんと共有して相談して。職員一人一人の協力がなかったらできなかつた。その達成感もありますね。川原さんにも助けてもらってます。

**川原** 「永楽荘」は、最期まで過ごされる方がほとんどなので、この回復は嬉しかったです。

この間は、体調が悪くなった利用者さんが一度お家に帰りたいということで、そのための調整をみんなで相談しながら、お家に帰っていただくことができました。佐藤さんたち、介護士さんみんな状態がつかつていうのを逐一報告してくれて。

これからも協力して、利用者さんの希望を叶えてあげられた

らなつて思います。

**佐藤** 介護の知識がまったくないなかで、最初に上司から言われたのが「ここにおる人はここが最期の家だから」って。それからはずっと、後悔なく、ここにかけてよかったと思ってもらえるようにと支援しています。最期を看取るときも、「安心しておれるかな」と考えています。

正直、看取りに慣れてしまうと怖さもあるんです。自分が嫌になる面です。でも、日々ご利用者に向き合つて、自問自答しながら支援を続けています。

**川原** 私も看取りについては、いつも難しいなつて思うんです。

実際に何回か看取らせてもらったけど、同じ看取りはないなつて。いろんな利用者さんがいて、ご家族がいて、一人一人全然違う。その都度、ご家族とコミュニケーションをとって、信頼関係を築いて支援することが一番大事なのかなつて。でも、何回やつても難しいなと思います。

**みんなで動いて希望を叶える**

**佐藤** やりがい、ですか？ やつ

福祉の勉強はしてないです。三好を出たからこそ気付いたよですか？人が温かいですよ。戻つてすぐに、小さい頃から知つてる方に「元気にしよつたんかあ」って声かけてもらつて。この一言がすごく嬉しいです。地元が好きなのひとつやなと。

**川原** 私も神戸のほうに出つたんで。転職してまだ日が浅いですが、ここは50年の歴史がある施設なので、勉強させてもらつてます。5階の窓から外を見ると、川と山と橋が全部見えるんですよ。奥のほうに母校が見えたり。ここから見える季節ごとに変わる景色が好きです。

**佐藤** 僕は季節の中では紅葉が一番。通勤時に山が一面に紅葉で色づいているのを見るのが好きですね。

**川原** 一度出たからわかる景色の美しさ、かもしれせんね。

**みんなで動いて希望を叶える**

**佐藤** やりがい、ですか？ やつ

# NEUTRAL

2018年9月22日発行

発行 社会福祉法人池田博愛会  
徳島県三好市州津滝端1271番地7  
Tel. (0883) 72-3150  
<https://www.ikedahakuikai.org>

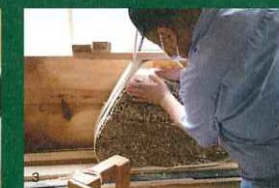
制作メンバー  
グラフィックデザイン 野中健一 (NUDE FREE WORKS)  
編集・ライティング 山本特  
写真 吉永正志、BAKEMONO.  
プロデュース・ディレクション 中村百花 (NPO法人Ubdobe)

協力 別格二十霊場第十五番 箸蔵寺  
ハレとケデザイン舎 植本修子さん  
箸蔵福祉村の皆さん  
博愛まつり実行委員会  
箸蔵山荘 通所部の皆さん  
池田博愛会本部事務局 竹田公二さん 岡千賀子さん  
児童発達支援センター すぎのこ 滝上和希さん 岡加奈子さん  
障害者支援施設 箸蔵山荘 岡田陸さん 藤村憲吾さん  
特別養護老人ホーム 永楽荘 佐藤仁貴さん 川原蒼さん

表紙制作協力 社会福祉法人池田博愛会 セルブ箸蔵  
平田印刷

印刷・製本 大洋印刷株式会社

ホームページ  
池田博愛会 <https://www.ikedahakuikai.org>  
Ubdobe <http://ubdobe.jp>  
徳島県三好市の地域福祉PRプロジェクト NEUTRAL <https://neutral.com>



①街へと出荷されていく焼きたてのパン ②池田博愛会はこの施設に向いても緑と川に囲まれている ③割り箸工場の中はヒノキの香りが常に漂っている ④⑥街の中心部にある「麺処はくあい」。日中は満席になるほどの盛況ぶり ⑤うどんの製麺ももちろん法人内で

## 池田博愛会とは

昭和38年（1963年）、障害をもった子どもたちのための施設「池田学園」の開設を皮切りに、地域のなかで福祉を育んできた「社会福祉法人池田博愛会」。50年以上の歴史を誇る法人だが、100年先を目指し、柔軟な発想力をもつ職員らによって二日一日が営まれている。

## 考え方を広くする

「ルーティンワークのなかに+αの発見を」と、いつも学びの場が開かれている。施設内だけにとられない勉強会は数多く、職員も積極的に参加する。そこで生まれたアイデアや提案は、実現することが多いと言う。「福祉の仕事はクリエイティブ。絶対に新しいことができる」。

## 働くこと暮らすを一緒に

農作物をつくって、加工し、販売する。素材から口に入るところまでを一手に担う。また、製品は「買い物弱者」と呼ばれる山間部の高齢者に宅配もされる。豊かな三好市の土地は、安心安全な食を生み出し、人々がつながっていく。

## 教えてくれた人……



法人本部事務局次長  
岡千賀子さん

お日さまのにおいがたっぷりつまった洗濯物。



法人本部事務局長  
竹田公二さん

雲海ができていくときに音がするんですよ。なんちゃって！